

令和5（2023）年度
自己評価報告書

令和6（2024）年10月

社会福祉法人尾道さつき会
尾道福祉専門学校

1. 教育方針

地域社会から親しまれ支えられ、地域に貢献できる専門学校として次の方針を基本とする。

(1) 教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の資格取得可能な学生を養成する。

(2) 介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や介護職員の声を生かした教育を実施する。

(3) 福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、施策の動向を収集することで、最先端の介護現場にも通用する学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成する。

(4) 地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに地域へ貢献できる学生を育成する。また、開かれた学校として施設を活用した住民の諸活動を支援して、地域福祉力の育成やコミュニティの活性化に貢献する。

2. 学校の教育目標

高校生及び社会人に選ばれる介護福祉士養成校を目指し、教育内容を見直すほか、本校の特色を積極的にアピールするため広報戦略を強化する。また、介護福祉士実務者研修等の資格取得支援の研修を開催し、広島県東部における介護職員養成の中心的な役割を果たす。

3. 重点目標

社会福祉法人が運営する学校としての特色を明確にし、特色に沿った授業や行事の工夫を行い、学生の学びの多様性を創る。また、学生確保に向けて、特色に沿った効果的な広報に取り組む。「体感しろ！～未来はもっと自由だ～」をキャッチフレーズに、法人事業所との連携により、学びを現場で体感する、新しい介護を体験することを実現する

(1) 学校経営の安定化と学生確保の取り組み

- ・令和6年度の入学者を35名確保する。 → **実績：令和6年度入学者22名**
- ・令和6年度の退学者を3名以内にする。

(2) 学びの多様性を創る

- ・定期的に法人内事業所で授業を実施する。
- ・講師陣を再検討する。
- ・ICT、介護ロボット研修会や専門職との研修等を企画する
- ・学習しづらさを持っている学生への個別支援について検討する

(3) 学生が主体的に学校に参加できる

- ・取り組みに関する学生へのアンケートを実施する
- ・学校内のレイアウトや掲示物等を学生と共に作る
- ・学生委員会や役割への意図的な関りを作る
- ・5S活動の周知と実施を徹底する

4. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切… 1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 ③ 2 1
・学校における職業教育の特色はあるか	4 ③ 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 現状

社会福祉法人尾道さつき会の学校運営の理念は「地域に親しまれ、支えられるとともに、地域に貢献できる専門学校づくり」であり、以下の目的が設定されている。

教育内容の充実

介護福祉に関する専門的な知識・技術を教授し、介護福祉士の取得が可能な学生を育成

介護現場に即した人材の育成

福祉現場が直面している課題を反映した教育内容や、介護職員の声を生かした教育を実施

福祉動向の把握及び理解

関係機関との連携を深め、早期に施策の動向を収集することで、福祉の実情を反映した学習内容を編成し、高齢者及び障害者福祉の向上に寄与できる学生を育成

地域貢献

地域や事業所の行事あるいは活動に参加する特別活動を充実し、社会性や自主性を育むとともに、県東部の唯一の専門学校として地域に貢献できる学生を育成

② 課題

コロナ禍が過ぎ、学内の活動を平常に戻していき、専門的な知識・技術の教授範囲も完全に基に戻していくことが必要。学生数低下の中、今後は社会人や外国人を学生として増やしていくことが求められており、多様な人材を介護現場に輩出するためには、学びと評価の可視化、学びの手順の簡素化に取り組む必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 ③ 2 1
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 ③ 2 1
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 ③ 2 1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 現状

運営方針、事業計画については、毎年教職員間で協議を行ったうえで策定し、理事会に提出している。学校の運営については、教職員は校務分掌で役割を明確にし、実施している。協議事項は毎月2回開催している教職員会議等で十分協議したうえで、決定事項として情報の共有化も図っている。教育活動については当校のホームページ等により情報公開に努めている。

② 課題

コンプライアンス体制、情報システム化による業務の効率化の取り組みが急がれる。特に、事務業務の効率化、学生の学びの簡素化を目的とした ICT 等の活用が急務である。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

実践から学ぶ一環として、11月27日1年生の授業にて、おのみち見守り訓練（ひとり歩き等模擬訓練）を西迫地区で行った。地域住民や地域の関係機関、当事者2名の参加があり、実践的な学びとなった。中国新聞にも記事として掲載された。

教育理念にある地域に親しまれる教育内容として、同法人内事業所の特徴や仕事内容について、職員から講義を行った。介護職員の現場の声を生かした教育の一環となった。

県社協の協力のもと、就職応援ガイダンスを開催し、県東部14か所の法人の方から法人状況や採用条件の説明のほか、就職後数年の職員から介護福祉士としての仕事内容等聞くことができた。

花王の職員から、身だしなみをテーマにした授業を受け、実習前とも重なり、社会人としての学びに繋がった。

その他、実践から学ぶという教育目標に沿って、法人内のにしぎの家夏祭りに参加したり、地域催し物に参加し、自分達で考えたレクリエーションを実施する機会等を持った。

人材育成の観点から進級制度の一部改訂を行い、学生個人の力量に合わせ2年過程のところを4年以内で科目単位を履修できるよう幅を広げた。3年目以降にかかる学費を減じ、これまでなら退学していたかもしれない学生の履修環境を調整し、学びの継続を支援することとした。最高12

科目の再履修が必要な学生も慣れたクラスメイトと一緒に2年に上がりながら、1年の科目の履修ができる選択をして在籍した。

② 課題

変化する介護現場のニーズに沿った教育活動を行っていく上で、学校が介護現場や社会と繋がり、ニーズを把握し、ひとつずつバージョンアップしていくことが非常に重要。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切…1
・就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 ③ 2 1

① 現状

2023年度の退学者は2名、いずれも進路変更のための退学となった。また、2年課程では履修完了しなかった2名が3年次でのチャレンジではなく退学を選択した。1年1名、2年1名が選択している。2023年度国家試験については、26名受験、25名が合格した。また、全員福祉事業所に就職した。

② 課題

退学率は低下したが、2年次修了後3年次進級を選択する率は低く、モチベーション維持に向けた工夫も必要。

(5) 学生支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
・保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 現状

県社協の協力のもと、就職応援ガイダンスを開催し、県東部 14 か所の法人の方から法人状況や採用条件の説明のほか、就職後数年の職員から介護福祉士としての仕事内容等聞き、自分の進路を具体的に考える機会とした。

課外活動として、地域の理解や参加を目的とし、4月に法人内施設の利用者と桜の見物を実施。2年生が利用者の移動支援を行いながら、桜並木を歩き、声掛けをし、安全確認等を同時に行う技術を学ぶと同時に、共に楽しむことができた。また、全校生で尾道の特徴や楽しみを見つけたり、地域住民にインタビューを行う等、地域を知る体験の時間をもった。また、地域に出て、認知症の方の見守り訓練の実施に参加し、法人内外の介護関連事業所や入居者、地域住民の方々と共に実践的な課外活動となった。

学生の経済状況への支援では、県の就学資金を活用しながらも、その資金を家計に充て、教材費等が未納となっている学生に対して、家庭訪問にて保護者とも面談し、学業継続に向けて協議し、学費を支払える環境を整えた。欠席の多い学生には、家庭訪問や保護者との連絡を密にすること等、学習の継続に配慮した。この学生は、新年度休学をしている。

②課題

様々な課題を抱える学生が増加していることから、精神障害や発達障害などに対して、教員も基本的な知識を習得する等理解を深め、保護者と協力して学生の生活全般を見守り、また学生の状況に応じた個別対応がより一層求められる。関係機関との連携も深めていく技術も必要である。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 現状

教室のインターネット環境を整え、オンライン授業やインターネット活用等がスムーズにできるように整備した。また、学生が過ごす中心部である学生ホールの壁がはがれている個所が目立っていたため改修した。改修に際しては、壁紙を学生と一緒に選び、明るい色、柄を用いて居心地のよい環境づくりとした。

防火訓練を校内・法人職員の参加も得て実施した。授業での防災リスク管理の学習を行っている。

② 課題

普段からメンテナンス、教職員・学生にも物品使用時の大切にす意識、整理・清掃等において、SDGS の取り組みの一つとして理解を深めていく必要がある。5 S 活動には繋がられていない。また、光熱費の値上がり等を踏まえ、今後太陽光発電等の検討が必要。同時に、豪雨等災害による断水等への対応について検討が必要である。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切… 1
・学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1

① 現状

2023年度パンフレットを刷新した。キッズコーポレーションの業者を加え、高校ガイダンスの回数を増やしたが、ガイダンスで介護分野を希望する学生数が半減しており、入学数低減となった。ただし、この状況は本校のみならず、県内外の養成校はいずれも同様の状況にあることから、我々の力が及ばない社会情勢が要因していることは明らかである。

② 課題

少子化が進む中で高卒の新入生を獲得するには限界があると認識している。とは言え、現時点で留学生なく定員充足率60%前後を維持している。そのような中で、留学生や社会人の入学生獲得にシフトすることを検討することは非常に重要。関係者や企業等との繋がりの中で検討を進める。並行して、高卒新入生獲得に向け、学校の新しい取り組みや法人内外の介護現場の繋がりを強調した実践と情報発信が必要と考える。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	②	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	②	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 現状

2023 年度の入学生 26 名であり、財務状況は下方状態である。学生数が 60%維持できている今、早期に財務状況改善に向けた新たな事業展開が求められる。

② 課題

新たな事業を複数展開する必要がある。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3 やや不適切… 2、不適切… 1
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
・自己評価結果を公開しているか	4 ③ 2 1

① 現状

専修学校設置基準等を遵守し、適正に運営している。個人情報の保護については学生から誓約書を取り遵守するよう努めている。自己評価については、学生アンケートなどを実施しながら振り返りをして、改善を心がけてきた他、この形式での自己評価からの課題について解決にむけて取り組みを実施している。

② 課題

自己評価結果をホームページで早急に公開する。

③ 特記事項

法令順守については、法人も強いコンプライアンス意識を持っており、学校でも常に意識化するよう努めている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3 やや不適切…2、不適切… 1
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

① 現状

昨年に引き続き、広島県基金を活用し、ICT・介護ロボット導入支援研修を開催し、介護現場の職員が学べる機会を作ることができた。また、地域における認知症見守り訓練の参加、地元久保地区のふれあい祭りに1年生全員で参加しレクリエーションを行うなどの機会をもった。その繋がりを機に、地元の子どもの集まりに学生が参加したり、民生委員の勉強会を学校内で実施することに繋がっている。また、地域の職能団体の会議や研修会に学校を提供することで、介護現場の職員や専門職に学校の存在を知ってもらい、活用してもらおう基盤を整えつつある。

② 課題

社会福祉法人立の養成校としての役割の一つに、地域のニーズに学校が出来ることを形にして応えることがあると考えている。この2年間で地域や地域の専門職との繋がりを強化してきたため、更には研修センター的な役割を創出できるよう検討しておくことが必要。

③ 特記事項

広島県実習指導者講習会、広島県介護福祉士会の研修や取り組み、広島県介護支援専門員法定研修、尾道市介護支援専門員連絡協議会及び尾道市地域包括ケア連絡協議会の研修に関わっている。